

(6) 第6次長期5か年研究推進計画 平成11(1999)年度～平成15(2003)年度
 【第6次研究主題・分野別目標・課題】

研究主題・副主題	
新しい時代を拓き、豊かな心で主体的・創造的にたくましく生きる子どもの育成 ～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、 児童生徒一人一人を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実・発展を目指して～	
分野	学校・学級経営の充実・深化
目標	地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに児童生徒に豊かな心を育て、個性を生かす学校・学級経営の創造
課題及び研究内容	1 児童生徒の個性を生かす経営理念と特色ある教育計画の創造を図る。 (1) 児童生徒の個性を生かす教育目標達成のための経営構造の明確化 (2) へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、地域に根差した教育計画の構想と実践 (3) 児童生徒一人一人の個性を生かし、多様な体験を重視した特別活動の充実 2 地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会とともに豊かな心を育む教育活動の推進を図る。 (1) 地域との連携を図り、豊かな心を育み、地域づくりに積極的に関わる経営の推進 (2) 道徳的実践力の向上を図る道徳教育の指導計画の改善・充実 (3) 道徳的実践力の育成を図る道徳の時間の充実 3 郷土の自然・文化・伝統等を重視し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。 (1) 郷土への愛着と国際感覚豊かな人間の育成を図る学校・学級経営 (2) 学校や地域の特性を生かした教育課程の編成、実施、評価 (3) 体験的な活動を通して自主性や連帯意識を高める指導の改善・充実 4 学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。 (1) 学校・学級経営の活性化を目指した評価活動の改善・充実 (2) 地域や学校の実態に即した集合学習、交流学习の協業化 (3) 学校の実態に即した校内研の充実と近隣校、併置校との協力・協業化による共同研究の推進
分野	学習指導の充実・深化
目標	個性を發揮しながら、自ら学ぶ態度・能力を身につけ、共に高まっていく学習指導の創造
課題及び研究内容	5 児童生徒の興味関心、意欲、態度などを重視し、一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。 (1) 基礎的・基本的な内容を明確にした指導計画の改善・充実 (2) 児童生徒一人一人の特性を生かし、個性を伸ばす指導計画の改善・充実 (3) 各教科の特質及び学年差、個人差を踏まえ、児童生徒の発達段階を考慮した指導計画の改善・充実 6 地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。 (1) 地域の自然や文化等の地域環境を生かす指導計画の作成、充実 (2) 家庭・地域社会との連携による豊かな心を育成する指導計画の改善・充実 (3) 異校種間の連携を図った指導計画の作成、充実 7 課題意識を持ち、学び方を身につけ、仲間とともに進める問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。 (1) 児童生徒一人一人の学習意欲を高め、主体的に解決する学習の在り方の改善・充実 (2) 児童生徒一人一人の多様な考え方を生かした学習指導過程の改善・充実 (3) 教科や教材の特性に応じた問題解決的な学習指導過程の改善・充実 8 学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。 (1) へき地・小規模・複式学級を有する学校としての特性を生かした体験的な学習の指導方法の改善・充実 (2) 児童生徒一人一人が主体的に学習する指導方法の改善・充実 (3) 児童生徒一人一人が生き生きとした学習を展開するための指導方法と評価の改善・充実

1 第48回日高大会の成果と課題

① 日高大会分科会のみまとめ

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第1分科会) 平取町立 二風谷小学校	地域に根ざし、いきいきと活動する子どもの育成 ～地域を知り、地域に学ぶ活動を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく学べる「地域に学ぶ活動」の推進 ・子どもの発想を大切に、地域素材や人材を生かす体験的活動 ・今もの手で創り上げ、表現力を育てる集会活動の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然・歴史・文化等に対する関心が深まった。 ○児童が興味をもって、テーマに沿った調べ学習ができるようになってきた。 ○ハララキ活動について地域の理解が得られ、いろいろな面で協力してもらいやすくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の自主性・主体性を育てる話し合い活動のあり方 ○総合的な学習の時間への移行
	学校・学級経営の充実・深化3			
(第2分科会) 門別町立 正和小学校	自ら考え、いきいきと活動する子どもの育成 ～異学年集団活動を通じて～	<ul style="list-style-type: none"> ・個の実態把握 ・個の発想を大切に活動計画 ・環境整備 ・個を生かす活動の過程 ・一人一人の変容の把握、支援、評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年集団で取り組む活動での高学年の指導制が高まり、下学年を包むような、温かく楽しい雰囲気が出てきている。 ○支援のあり方や手だてを考え、自己評価や相互評価を教科学習に入れることにより、自信をもって考えを発表したり、自他のよさを認め合う態度が見られるようになってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ○異学年集団における個と個、個と集団のかかわり方 ○一人一人に対する共通理解を深め、変容を母区するための効果的な方法
	学校・学級経営の充実・深化1			
(第3分科会) 新冠町立 東川小学校 太陽小学校 美宇小学校 大狩部小学校	多くの仲間と学び合い、生きる力をはぐくむ子どもの育成 ～一人一人の輝く場を求めて～	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な協力教授 ・多くの仲間と触れ合い学び合う学習場面 ・集合学習年間計画 ・評価方法の工夫・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、重点項目を絞って評価を積み重ねたことにより、改善点が見える評価になってきている。 ○各学校での指導方針と集合学習における指導について意見交流し、活動の場を保障してきたことで積極的に関わる態度が見られるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校での分習のレベルの統一を図るための指導方法の工夫 ○各学校の児童の実態を全職員が把握できる手だて ○T・Tを有効に活用できる形態の模索
	学校・学級経営の充実・深化4			
(第4分科会) 浦川町立 野深小学校	自ら学び、感性豊かな子どもの育成 ～「馬」を中心とした地域素材を取り入れた総合的な学習の取り組みを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・「馬」を中心とした地域素材を積極的に活用した体験的な活動 ・「馬」をテーマにしたクロスカリキュラムの作成と体験による感動を各教科・領域と相互に関連づけた指導方法や学習環境の創造 	<ul style="list-style-type: none"> ○「馬」とのふれあい、各教科・道徳特別活動において、それらを生かして創意工夫を凝らした学習活動を展開することによって、感覚でとらえ、意欲をもち、イメージをふくらませ、感動する子どもを育てることができた。 ○生き物や下学年に対するやさしさや思いやりの心が育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「感性」を思い通りに表すための表現力の一層の充実 ○やさしさや思いやりの心を育てる教科・道徳、日常生活の中での継続的な指導
	学校・学級経営の充実・深化3			
(第5分科会) 日高町立 日高小学校	主体的に学び、豊かに表現できる子どもの育成 ～地球の素材を生かした社会科・生活科の授業づくりを通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材で意欲をもつ学習活動 ・地域素材で生きる体験的な学習支援をどう進めるか ・年間指導計画と学年の系統性 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動を取り入れた課題解決的な学習を通してもの見方、考え方がひろがり、深まってきている。 ○学んだことを表現する方法が、多様になってきた。 ○お互いのよさを認め合う評価活動を繰り返すことにより、受容的な雰囲気が高まってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より多面的な地域素材の開発 ○他教科、他領域への活用 ○指導過程における評価の位置づけの明確化 ○個を生かす指導の工夫・改善
	学習指導の充実・深化5・6			
(第6分科会) 門別町立 清島小学校	自ら学ぶ意欲と態度、能力を育てる豊かな教育活動をめざして ～体験的学習と作文指導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習の掘り起こしと実践 ・地域の学習の計画化 ・作文指導法 ・支援や評価のあり方 ・集会活動の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察や調査を、学級主体とすることにより(昨年は、縦割り班)学年差を考慮した活動、学級の個性を生かした活動とすることができ、主体性が発揮されるようになった。 ○作文教材だけ、AB年度で単式で実施することにより、見直しをもって充実した指導を展開することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童主体の学習を進める上での教師の指導のあり方 ○自己評価カードの様式、生かし方の再検討
	学習指導の充実・深化8			

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第7分科会) 新冠町立 節婦小学校	自分の考えをもち、生き生きと活動できる子どもの育成をめざして ～自然や地域の素材を生かした教育活動を通して～	・学ぶ力を身につける学習指導の工夫 ・全校集会、縦割り班活動を生かした体験的な活動のあり方	○自分達で課題を見つけることによって、自ら学習しようとする態度を育てることができた。さらに、課題解決的な学習に取り組むことで、研究教科以外にも広がりが見られた。 ○身近な教材を取り上げることで、繰り返し、調査、体験でき、学習意欲を継続させることができた。 ○直接体験することで、意欲的に活動することができた。	○共通課題を解決する過程での、一人一人の課題を大切に学習のあり方 ○調査、体験の時間を十分に保障するための指導計画のあり方 ○自分の考えをもち、相手に伝えようとする意欲の育成 ○子どもたちが、自分で調べることができる資料の充実
	学習指導の充実・深化6			
(第8分科会) 静内町立 川合小学校	学ぶ喜びを知り、意欲的に学習する子どもの育成を目指して ～算数科を軸として～	・四段階指導の改善 ・教材・教具の活用 ・年間指導計画の改善 ・学習形態(リーダー学習) ・ノートの指導、個人差について	○興味・関心を持たせることができる様な課題の指示や教材・教具を工夫することにより、子どもたち自ら問題を解決していこうとする意欲が見られた。 ○指導過程を四段階にし、子どもたちに合った言葉で表すことにより、一人一人が学び方を身に付けることができた。	○各段階における個人差を考えた個別指導の時間の確保 ○間接指導時における子どもたち同士の小交流についての工夫 ○全教育活動における子どもたち一人一人の多様な考えを引き出し、伸ばす工夫
	学習指導の充実・深化7			
(第9分科会) 三石町立 亀舞小学校	地域に根ざし、主体的に学ぶ子どもの育成 ～地域環境を活用した教育活動～	・地域環境を生かす指導計画の作成 ・課題を主体的に見つけ解決していく子どもの育成 ・「ふるさと学習」の総合的な学習の時間への発展	○地域の自然を観察する活動を通して地域の自然を見つめ直し、自然を愛する心が育ってきている。 ○地域から学び体験する活動を通して地域に関心を持ち見つめ直す目が育ってきた。 ○地域素材の発掘、選定により、教師自身にも自然を観る目が育ってきた ○様々な発表の機会を通して、創意工夫する態度と発表力が育った。	○地域の文化や伝統を生かし、直接体験を生かした授業実践の取り組みの一層の充実 ○総合的な学習の時間につなげる「ふるさと学習」の年間指導計画の作成 ○個人の診断や意欲を生かすための評価についての研修や実践
	学習指導の充実・深化6			
(第10分科会) 様似町立 鶯苦小学校	自ら考え、主体的に課題を追求する子どもの育成 ～算数科と話し合い活動の指導を通して～	・学習の進め方と教科リーダーの役割 ・操作活動を通じた自力解決の指導法 ・全校話し合い活動の進め方	○操作活動の導入により、どの子も意欲をもって楽しく学習に参加できるようになった。 ○問題解決に自分なりの見通しをもつこと、操作を通して自力解決に努力すること、個々の意見や考えをもとに練り合うことなど、課題解決を目指す一連の学習活動を通して、自ら課題を追求しようとする意欲や態度が育っている。	○発達段階に応じた教科リーダーの育成 ○操作内容を選択したり、課題解決の見通しをもてない子どもへの支援のあり方 ○ディベート能力の育成
	学習指導の充実・深化7			
(第11分科会) えりも町立 東洋小学校	思いを豊かに表現できる子どもの育成 ～音声表現を生かした物語文の指導を通して～	・「子ども一人一人の思い」を大切に授業 ・始めから終わりまで絶えず読み声を響かせる授業 ・よさを認め、学び合う授業	○音声表現を生かして思いを豊かにふくらませ、書き込みや短冊や動作化などに自分の思いを表せるようになった。 ○学校全体に、よさを認め合い、安心して発信できる雰囲気や育ち、授業や集会で積極的に発信できる子どもが増えてきている。 ○授業全体に、非常に活気がでてきた。	○「読む」「聞く」で育てた表現力を基盤とする「話す」「書く」表現力の充実 ○一人一人の課題意識の育成 ○「練り合い」による全体の深まりの追求
	学習指導の充実・深化5			
(第12分科会) えりも町立 庶野小中学校	意欲的に学習活動を行う児童・生徒の育成 ～活動の場を通して～	・活動の場の工夫 ・学習課題の工夫 ・学習形態の工夫 ・教材・教具の工夫	○指導過程の見通しをもつ段階、調べる段階、まとめる段階と3つにわけまとめる段階で発表場面を設定することによって、学習意欲を高めることができた。 ○教師が変われば子どもが変わる。教師の適切な支援・援助によって、子どもは意欲をもち自ら学ぶ力を伸ばし大きく成長した。	○総合的な学習の時間としての水産学習のあり方 ○小中併置校の利点の活用方法 ○地域素材の掘り起こし ○学ぶ意欲を高める集会活動のあり方
	学習指導の充実・深化6			

② 日高大会の成果と課題

成 果 学校・学級経営

課題1 ≪児童生徒の個性を生かす経営理念と特色ある教育計画の創造を図る。≫

- ・個の実態を、よさに焦点を当てながら把握し、願いや興味を生かす場の設定や個々の目標を設定してきたことにより、相互のよさを認識し、より深みのある思考ができるようになってきた。
- ・特に高学年の指導性が高まり、低学年を包みこむ温かい雰囲気広がりが、父母や地域社会との連携もより深まった特色ある教育計画と教育活動の創造を図ることができた。

課題2 ≪地域の教育課題を踏まえ家庭・地域社会と共に豊かな心を育む教育活動の推進を図る。≫

- ・地域や学校の特性を生かした教育活動の推進を、各教科月別単元配列計画では地域の素材を生かす単元の配列や指導略案の作成、地域をテーマにした各教科・領域のクロスカリキュラムの創造を図り体験的な学習や相互に関連づける学習活動を展開することができた。
- ・父母・地域社会と共に教育活動を創造することができ、自他のよさをとらえ認め合い、感動や共感そして新たな意欲をもつ態度や能力が育ってきた。

課題3 ≪郷土の自然・文化・伝統等を重視し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。≫

- ・地域で活躍されている人たちの協力を得て、体験的な活動や調査活動などを積極的に行うことにより、「総合的な学習の時間」を見通すことできた。
- ・子どもたちの興味・関心が触発され、自ら計画を立て、調べていく学び方が身に付きつつあり、さらに縦割り班で活動することによって、低学年から高学年まで強い信頼関係が育ってきている。

課題4 ≪学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。≫

- ・近隣校との共同研究の中で授業の構想・求める子ども像を明確にすることによって、より適切な支援活動が行えるようになり、子どもたち一人一人の思いを授業に反映できるようになった。
- ・近隣校との交流により、より大きな集団の中で多くの仲間と学び合える楽しさや喜びを味わうことによって、様々なものの見方・考え方やより広い視野と思考が培われ、それが各学校に戻っても主体的な活動となってきている。

学 習 指 導

課題5 ≪児童生徒の興味・関心、意欲、態度などを重視し、一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。≫

- ・体験的な活動を取り入れた問題解決的学習を通して、一人一人が意欲的・主体的に参加し、ものの見方や考え方に広がりや深まりがでてきている。
- ・指導計画の改善が指導過程をよりきめ細やかに立てられるようになり、お互いの考えの違いやよさを随所で認め合うようになり、自己決定の幅や解決の見通しに広がりをもたらしようになった。

課題6 ≪地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。≫

- ・地域素材の活用により、体験的学習を取り入れた課題解決学習を通して、興味・関心・意欲がふくらみ、ものの見方・考え方が広がり、深まってきている。さらに、地域を観察したり調べたり体験したりする活動の場を通して、地域の関心をもったり見つめ直したり地域を愛する心が育ってきた。そして、地域で学習したことを社会全般のことと対比しながら学習する姿が見られるようになってきた。
- ・地域の人材活用により、より専門的な情報や子どもたちの願いに応えた学習活動が可能となった。このことにより、地域素材を取り入れた年間指導計画や地域マップの作成が充実し、地域の特色を生かした教育活動を通して、課題を見つける力や創意工夫して発表する力が育ってきた。

課題7 ≪課題意識をもち、学び方を身に付け、仲間と共に進める問題解決的な学習指導過程の改

善・充実を図る。》

- ・子どもたちが学び方を身に付け、課題解決への取り組みが意欲的になった。また、自ら興味・関心に応じて課題を設定したり、提示方法を工夫することにより、自力解決へ向けた意識づくりを行うことができた。
- ・子どもの実態に即した適切な教材・教具を操作活動に生かし、解決結果を予想したり、解決に向けての見通しをもったり、練り合いでの根拠にしたりして、より主体的な学習態度が見られた。
- ・教科リーダーを取り入れたことによって、より主体的な学習態度や意欲が高まり、他の考えやよさを認め合い、みんなでよりよい結論に高まろうとする意欲や態度が見られるようになった。

課題8 <学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。》

- ・可能と思われる体験的な学習を掘り起こし、年間指導計画を整備し実践検証を進めたことにより、内容や方法について共通理解が深まってきた。さらに、支援や評価を工夫し、自己評価を取り入れた結果、興味を示し生き生きと学習し、主体的に取り組むようになってきた。
- ・具体的な活動の場が設定されることにより、目標が明確になり、課題意識が高まり、解決方法を自分たちの力で見いだしていく力が付いてきている。こうした力が、意欲的に取り組んだり自信を持って学習したりする能力に結びついてきている。

課 題 学校・学級経営

- ・教科・道徳・特別活動の三領域をおさえた教育課程の編成・実施のさらなる充実が必要である。
- ・「総合的な学習の時間」の意義や目標を踏まえ、方向づけや移行措置に向けて年間指導計画の作成に取り組む必要がある。
- ・地域の素材や教育力をさらに効果的に生かすために、各領域の関連や系統を踏まえた指導計画の工夫・改善に努めていく必要がある。
- ・地域素材の教材化や人材活用では、さらに効果的な教育課程への位置付けが必要である。
- ・異学年集団の活動では、個と個、個と集団がどうかかわりどう高まっていくのかを、長期的なスパンでとらえていく必要がある。
- ・農園活動や飼育活動など子どもが主体的に関わることができる教育環境づくりの具体的な方策をさらに研究し実践を深めていく必要がある。
- ・集合学習では事前より綿密な打ち合わせの大切さや児童相互の交流がさらに図られる場を十分に確保するような、より明確な指導計画の改善・充実が必要である。
- ・子どもの実態に即したより柔軟な指導体制の確立と指導計画の改善が必要である。
- ・一人一人のよさを生かすために、個に応じた多様な指導方法などについて研究を深め、実践を積み上げ評価方法を改善し、それを共有化し発展させていく必要がある。

学 習 指 導

- ・一人一人がより意欲的に学習に取り組むために、子どもの側に立った教材研究を深めると共に、問題解決的な学習方法の定着、課題把握の仕方、発問、自作教具などをさらに工夫する必要がある。
- ・学習の仕方や約束など学習環境面での支援活動は充実してきたが、個々の子どもの実態や変容の分析に基づく個に応じた支援や評価の仕方については、より工夫する必要がある。
- ・学年差や個人差に配慮した指導計画の改善・充実をさらに図り、系統性や順次性を深めた実践研究を進めていく必要がある。
- ・地域のもつ豊かな教育力や教材を生かした実践研究をさらに深め、教育課程への位置付けや体験的な学習や表現力の育成とも結びつけて、より一層進めていく必要がある。
- ・児童の発想がさらに生かされ、創造的な表現や発表が醸成される指導や支援の工夫が必要である。
- ・より主体的な学習をするためには、子どもたちに任せる活動と教師が行う活動を明確にした指導をさらに工夫する必要がある。
- ・一人一人のよさや可能性を伸ばすための共感的な評価と支援的な指導を一体化した研究をさらに進めていく必要がある。

2 第49回十勝大会の成果と課題

① 十勝大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成果	課題
(第1分科会) 豊頃町立 大津小学校	ふるさとに学び、生き生きと活動する子どもたちの育成 ～‘伸びよ浜っ子’地域素材を生かした教育活動を通して～ 学校・学級経営の充実・深化3 学習指導の充実・深化5	・地域素材を教材化「ふるさと学習」の推進 ・一人一人の興味・関心を生かした体験活動の推進 ・話し合い活動や発表の仕方など、多様な表現活動や表現の場の工夫	○秋鮭から大津の産業を広げてとらえる体験ができた。 ○いろいろな発表の方法やまとめ方を育てることができた。 ○地域の講師の力を有効に生かすことができた。 ○総合的学習の全体の流れがわかる掲示ができた。	○学び合いを深めるための交流の仕方を育てる。 ○子どもの疑問を、さらに育てる必要があった。 ○課題に対しての追求が、不十分であった。
(第2分科会) 浦幌町立 厚内小学校	地域のよさを見直し、ふるさとを愛する子どもの育成をめざして ～地域の教育素材を生かした討論のある授業づくり～ 学習指導の充実・深化 5・6・8	・身近な素材(自然・人材・地域産業)などの発掘 ・身近な素材をもとにした「討論の授業」のあり方 ・「討論の授業」における教師の支援のあり方	○地域を考え、地域から学ぼうとする態度が身に付いた。 ○学び方が身に付き、一人一人が自分の考えをもって主体的に授業に取り組む姿勢ができた。 ○地域素材と討論を結びつけた本校独自の「総合的な学習の時間」が創出されつつある。	○地域の教育素材活用の仕方については、十分とはいえない。 ○地域の教育素材をどう生かして討論を組織するかを今後の研究で深める必要がある。 ○本校の研究は理論が先行し、実践が十分に深まっているとはいえない。今後は理論に基づく実践の充実・深化に努める必要がある。
(第3分科会) 清水町立 松沢小学校	ひとりひとりの思いを豊かに表現できる児童の育成 ～「話す、聞く」能力の育成を重視した国語科の研究～ 学習指導の充実・深化 5・6・7・8	・児童の願いに基づく「書く活動」「発表の場」を設定した授業 ・教材の系統性や他教科との関連を重視した指導計画の工夫 ・個人カルテによる児童のよさやつまずきの把握と授業改善	○国語カルテの利用により各教師が児童をより深く理解し支援ができた。 ○授業づくりが一人一人の児童を常に意識したものになった。 ○意図的に発表の場を設定したことにより、人前で話すことへの抵抗が少しずつ和らぎ工夫した発表やメモ無しの発表が見られたり、発表に対する質問、感想なども出せるようになった。 ○「相手に自分の考えを聞いてほしい」「伝えたい」という児童の意欲が見えるようになってきた。	○カルテの名称や作成の観点を、今後検討する必要がある。 ○さらに様々な経験や体験場面を仕組んだ教材の開発などに取り組む必要がある。 ○読書活動をしているが、集会での発表や読み聞かせなど工夫をしたり読書に親しむ環境の整備を進める必要がある。 ○学年の系統性を大事にした計画の見直しや活用について、さらに工夫する必要がある。
(第4分科会) 新得町立 屈足小学校	豊かな自然環境から学び、人や自然を思いやり、たくましく生き抜く児童の育成 ～豊かな経験をもち、考えを深める教育活動の創造～ 学習指導の充実・深化 6・8	・全領域での環境学習カリキュラムの作成と実践化 ・豊かな自然に触れ合う体験活動の推進 ・地域素材の教材化と地域の人材や施設の活用のあり方	○自然環境から、新たな気づきや発見、驚きや感動を得ることができた。 ○植物を育てる喜びや収穫の喜びを味わうことができた。 ○縦割り班の観察活動では、一人一人が役割を果たし学年に応じた観察する力を身に付けることができた。 ○集会活動では、調べ学習やのまとめ方、多様な発表の仕方、学年に応じた発想が集会発表に生かされた。	○縦割り班の中で、学年としての見方をはっきりさせていく必要がある。 ○教科・道徳・特別活動との結びつきを、より明確にしていく必要がある。 ○子どもの課題や解決の筋道を、事前につけておく必要がある。 ○環境教育の評価のあり方を、考えていく必要がある。
(第5分科会) 鹿追町立 瓜幕小学校	よく見、よく聞き、よく考える子ども ～ふる里体験を通して一人ひとりの気づきを生かす授業づくり～ 学習指導の充実・深化 6・8	・気づきを生むための体験活動の組織化 ・子どもの視点を考えるための教師の働きかけ「支援」のあり方 ・課題解決に必要な「調べ方」の技能を身に付けさせる授業 ・授業における評価のあり方	○総合的な学習における体験的な学習のあり方について明らかになってきた。 ○子どもたちに調べ方が身に付き、その対象も学年ごとに広がりが見られた。 ○地域との協力体制ができた。	○相互評価の場をもっと多く設定し、思考の拡散と収束を図ることが必要である。 ○個に応じた指導の充実をさらに図るため授業の形態についても研究を進める必要がある。
(第6分科会) 帯広市立 愛国小学校	豊かな感性を育む教育の創造 ～ふる里に学ぶ環境教育を通して～ 学校・学級経営の充実・深化3 学習指導の充実・深化6	・感性を育て、主体的な思考や活動を促す自然体験活動の推進 ・地域素材を教材化した教科における環境教育の推進	○身近な植物や昆虫の様子や季節の変化にもなる自然環境の変化を、これまでとは違った見方で五感を使って感じたり捉えたりすることができるようになった。 ○「感性の表出場面」を指導計画に意図的に位置付けることにより、児童は学年に応じて表現方法に工夫を加えることが、教師側は児童が表出する「感性」やその高まりを捉えることができた。	○「農園活動」「ウォッチング活動」を「総合的な学習の時間」の主軸に捉えるために、ねらい・内容・具体的な展開など質的な変更に関する検討を進めなければならない。 ○「感性」に限らず、小規模校の特性を十分生かすことができるような、よりよい評価方法についての研究を進めていかなければならない。

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第7分科会) 幕別町立 途別小学校	地域に根ざし、自ら学ぶ意欲を育てる豊かな教育活動をめざして ～意欲的に追求し、豊かに表現できる生活科、理科の指導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的、自主的な活動を育成する問題解決的学習を取り入れた授業 ・より豊かな表現力を育てる体験活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心・意欲が高まり、課題を主体的に見つけようとする力が育ってきている。 ○一人一人が課題をもつことにより、調べたいという意欲が見られ解決の場が活発になってきた。 ○地域の環境に対する理解や興味・関心が高まってきた。 ○様々な発表の機会を通して、工夫して発表する態度が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を見通した課題をたてる力の育成。 ○一人一人の思いや願いを実現し、子どもの学びに即した多様な授業の実践と深化。 ○問題解決能力を高める授業の実践と深化。 ○自分の考えをもち、相手に伝えようとする意欲の育成。 ○評価活動の改善・充実。
	学校・学級経営の充実・深化1・3 学習指導の充実・深化5・7・8			
(第8分科会) 大樹町立 中島小学校	地域に学び、情報を活用し発信できる子どもの育成 ～地域に学ぶ体験学習とインターネットでの情報活用～	<ul style="list-style-type: none"> ・表現し、発表し合う力を培う地域体験学習の取り組みの研究 ・コンピュータの操作技能、情報活用能力の育成を図る授業 ・総合的な学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々のテーマをもち、課題に没頭して取り組むようになってきた。 ○コンピュータを日常的に使用させていて、学年に応じた操作の取扱いを指導したことにより、確実に子どもたちに身に付いた。 ○写真などの情報を処理する実践を積み重ねることにより、子どもたちに情報処理能力が身に付いてきた。 ○カルテの形で自当てを活用するのは学習や評価に役に立った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人一人は課題追求をしているが、交流に広がりや深まりをもたせる必要がある。 ○子どもたちの相互の発表の場では、他の子どもの活動の発表を聞くことに関して余り関心が高いようには見えなかった。 ○表現の基本である「話す・聞く」という部分が、不十分な取り組みになっていた。
	学習指導の充実・深化 6・8			
(第9分科会) 上士幌町立 北門小学校	ふるさとの中で、豊かな心をはぐくみ、たくましく生きる子どもの育成 ～地域素材を生かし、体験的な活動を取り入れた指導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動を通し、地域のよさに気づかせ、郷土愛をはぐくむ地域学習の推進 ・地域素材を教材化した体験的学習の推進 ・多様な体験的学習への児童の興味、関心を喚起させる方策の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の豊かな自然に気づき興味・関心や課題意識をもつことができるようになってきた。 ○縦割り班活動では、学年を超えた結びつきが強まったり、高学年の意識の高まりが見られるようになった。 ○発表についての態度が身に付き、集中して聞く態度が定着してきた。 ○写真を効果的に使ったり、色の使い方もよくなり掲示物を作成する力がついた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合学習」の理論の深化に努めていかなければならない。 ○情意についての評価方法を工夫していく必要がある。 ○自己評価・相互評価については、更なる工夫が必要である。 ○時数の配当や内容については、子どもの興味・関心を最大限配慮することが大事である。 ○表現力や発表力をつけるための取り組みを日常的に継続していく必要がある。
	学校・学級経営の充実・深化3 学習指導の充実・深化6			
(第10分科会) 士幌町立 西上音更小学校	自ら課題を見つけ、意欲的に追求し、豊かに表現できる子どもの育成 ～地域の素材を活用し、体験的学習を取り入れた授業をめざして～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を活用した指導計画作成と実践化 ・調査活動、体験的活動における課題設定の工夫 ・学習評価や個を生かす支援、働きかけの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域素材の精選を図る中で、地域の特色を生かした教育づくりに前進が見られた。 ○学年に応じた課題追求の方法を整理する中で、意欲的に活動が展開された。 ○体験活動を通して、意欲的に表現方法やその活動などを取り入れていく中で、児童の意欲につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科とその他の領域との関連・学年間の縦のつながりを考えながら、地域と連携して素材の教材化を工夫・充実させていく必要がある。 ○体験活動の時間の保障と教材の内容のねらいを明確にし、蓄積していく必要がある。 ○学習過程における振り返りの工夫と表現内容を分かりやすく伝える工夫が必要である。
	学習指導の充実・深化 7・8			
(第11分科会) 音更町立 豊田小学校	自ら学び豊かに表現できる子どもの育成 ～地域素材を生かし「環境」を課題とした横断的総合的な学習の創造～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性を生かした身近な素材の教材化の推進 ・環境教育を見据えたクロスカリキュラムの編制と実施 ・体験を重視した学習活動の展開の工夫 ・個の考えを認め合う、生き生きとした発表、話し合い活動の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の身近な素材を教材化し、体験を重視した教育活動を進めることによって、子ども達が興味と関心をもつて生き生きと学習する姿が見られている。 ○日常的教育活動において「子どもの側に立った」「一人一人を大事にした」実践を積み重ねることによって意欲と表現の育ちがみられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校周辺にある自然、歴史、人材、文化などまだまだ埋もれている素材の教材化を今後も進めていきたい。 ○「総合的な学習の時間」の実践を進め、テーマ設定・追及活動評価のあり方について研究を今後も進めていきたい。
	学校・学級経営の充実・深化 1 学習指導の充実・深化 5・6・7・8			
(第12分科会) 音更町立 西中音更小学校	意欲的に取り組み高め合う授業の創造 ～算数科における追求活動を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えを引き出す課題提示、教材教具の工夫 ・自立解決をするための具体的手立ての工夫と教師の支援のあり方 ・話し合い活動の進め方の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に単元をとおしてストーリー性や関連性をもたせることで子どもの思考の深まりが見られた。 ○活動を取り入れることによって、子どもの興味・関心が高まった。 ○問題解決、リーダーを中心に活動することができるようになった。 ○多様な考えを認めることで、自分の考えに自信をもてるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた活動の手だての工夫 ○問題解決にいたる算数的な考えの育成 ○自分の考えを相手に分かりやすく伝える表現力の育成
	学習指導の充実・深化 5・7			

② 十勝大会の成果と課題

成 果 学校・学級経営

課題1 ≪児童生徒の個性を生かす経営理念と特色ある教育計画の創造を図る。≫

- ・教育目標の具体化に向けて、新学習指導要領の趣旨や三特性を踏まえ児童一人一人の個性を生かすように特色ある教育計画が立てられ、その実践的な研究が図られた。
- ・地域に根ざした体験的な学習や問題解決的な学習を重視するとともに、児童による自主的・創造的で多様な集会活動や合同学習などを通してゆとりある充実した教育活動が行われ、一人一人が自分らしさを発揮しながら豊かに学ぶ姿を育てることができた。

課題2 ≪地域の教育課題を踏まえ家庭・地域社会と共に豊かな心を育む教育活動の推進を図る。≫

※課題解決に向けた研究の該当校がなく、課題の解明がなされなかった。

課題3 ≪郷土の自然・文化・伝統等を重視し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。≫

- ・郷土のもつ自然・文化・伝統・産業活動等を積極的・創造的に教育活動に取り入れるとともに、地域の人々とのふれあいを大切にしながらその活用を図ることを通して、「郷土に学び、郷土を愛し、郷土に尽くす」児童の育成を目指す教育活動（ふるさと学習）を展開し、家庭や地域社会と三位一体となった地域に開かれた学校・学級経営を行うことができた。
- ・環境教育、国際理解教育、情報教育、健康・福祉教育などの社会変化に対応できる資質や能力を育成するための教育が積極的に行われたとともに、「なすことによって、より確かに学ぶ」ことを身に付けるための自然体験学習・社会体験学習・勤労体験学習などを取り入れた学習活動の工夫と改善がなされた。

課題4 ≪学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。≫

- ・会場校の校内研究を充実させるために研究協力校を配置し、協同研究体制を整えて研究の推進に当たってきた。多くの会場校では、その成果が表れて優れた実践的な研究を発表することができたとともに、共同研究校との研究成果の共有化が図られた。

学 習 指 導

課題5 ≪児童生徒の興味・関心、意欲、態度などを重視し、一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。≫

- ・各教科の特質や様々な指導形態（同内容・類似内容・学年別指導）の性質を踏まえながら指導計画の改善・充実に努めるとともに、小規模校の特性を生かし児童の実態をつぶさに把握し、学年差・個人差に応じた指導とよさや可能性を生かす指導などに配慮しながら、基礎・基本の確実な定着を図ることができた。

課題6 ≪地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。≫

- ・豊かな自然や身近な施設、伝統、文化など地域のもつ教育環境を積極的に教育活動の中に取り入れるように教育素材マップや人材バンクなどを作成し、恒常的にその活用を図る指導計画の工夫と改善に努めることができた。
- ・家庭や地域社会と連携し生活体験や自然体験・社会体験を豊かに経験させることを通して、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図ることができた。

課題7 <課題意識をもち、学び方を身に付け、仲間と共に進める問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。>

- ・児童に課題を把握させ自ら意欲と学び方を身に付けさせるため、一人一人の思考や判断、表現を大切にするとともに相互に課題を解決する学習活動を取り入れた問題解決的な学習を展開する学習指導過程の工夫と改善を図ることができた。
- ・「総合的な時間の時間」の取り組みを通じた具体的な実践から、小規模校や複式学級を有する学校における児童に自ら課題に立ち向かわせる学習が、「生きる力」を身に付けさせる上で大きな効果があることも明らかになった。

課題8 <学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。>

- ・児童の実態に即した教材や教具の開発と教育機器の積極的な活用を図るとともに、一人一人のよさや可能性などの価値を認める評価を通して、個性を發揮しながら学習目標を達成する指導方法の工夫と改善を図った授業を展開することができた。
- ・子どもの側に立つ教育の構想を、地域の教育力とどう関連づけて実践していくか。各学校で取り組みを進めている教育課程の編成・実施に当たっては、地域にある教育素材を教材化する始点を明確にし、それを指導計画や具体的な指導場面で効果的に生かす必要がある。
- ・地域の教育素材や人材を授業の中で、さらに効果的に生かすために、より開かれた学校の推進に努め、地域との連携を一層密にする必要がある。また、指導計画の作成に当たっては、「総合的な学習な学習」を含めた各領域間の関連と学年や単元の系統を重視することが大切である。
- ・学校の特色や児童一人一人の実態に即したより柔軟な指導計画と多様な指導方法・内容の改善が必要であり、特に各教科の特質を押さえた上で、学年差・個人差を踏まえた指導計画の改善と充実を一層図る必要がある。
- ・児童一人一人の興味関心に応じた授業を展開するために、体験的な活動を重視した授業をより広範に実践していく必要がある。又、体験的な活動から個々の課題を生み出し、それを解決する授業を組み立てることも一人一人のよさや持ち味を生かす上で必要である。
- ・指導計画、指導方法の改善・充実とともに、評価の研究も重視されている。特に「総合的な学習の時間」のようにプロセスを大事にした自己評価については、今後その内容や評価方法を工夫し、児童に成就感や達成感を味わわせる評価や教師の支援としての評価の在り方にも改善・充実を図る必要がある。
- ・複式学級の場合には、必ず発達段階による学年差があることを考慮し、それを学習指導案（教材の目標、児童の実態、留意点等）に明記し、指導に生かすことが、評価に関わっても必要である。そのことが一人一人を生かす複式ならではの学習指導の特色を生み出すことにもなる。
- ・児童一人一人に自ら考え、主体的に判断し解決する力を身に付けさせるためには、発表形式の授業や集会活動から脱皮し、児童が自らの調査や活動によって入手した情報を基に話し合ったり、練り合わせたりする指導が大事にされなければならない。

課 題
学校・学級経営

学 習 指 導

3 第50回宗谷大会の成果と課題

① 宗谷大会分科会のまとめ

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第1分科会) 猿払村立 浅芽野小学校	浅芽野の地域環境を生かした総合的な学習の時間の教材開発 ～地域とともに歩む学校をめざして～ 学習指導の充実・深化6	学校や浅芽野地区を様々な手法で紹介するキャンペーン活動である。見つける・見通す・調べる・関わる・表す・振り返るの6つの力の育成をめざし、低学年は姉妹校づくり、中学年は浅芽野HPづくり、高学年はいろいろなPR活動を展開する。	○教育を語る会を設定し、地域の人材・教材の開発では、子どもの希望を極力尊重し、有意義な教材の選定に努め、地域と一体となった研究推進。 ○子どもを全面に据えた学習を展開し、地域と一体化した計画がなされている。 ○PTAを中心とした「教育を語る会」は、地域の学校経営参画を意図した活動が展開されている。	○総合的な学習の時間の時間配当では、多少の増減を工夫の余地あり。 ○教えるから「気づかせる」指導、「調べる」から「新しい調べ」への変容を図るため、教師の共に学ぶ姿勢が大切。 ○少子化傾向を踏まえ、少人数指導をどのように工夫していくか。
(第2分科会) 猿払村立 知来別小学校	自ら考え、生き生きと学ぶ子どもの育成 ～共に学びあう授業展開～ <算数科を通して> 学習指導の充実・深化7・8	算数科 自らの考えを表現し練り合いを高め合う授業。主体的に学習する子どもの育成。 総合的な学習の時間 ①地域の特産物を焦点化。子どもの要求を生かし、主体的・体験的学習指導を通し、生きる力の育成 ②大学と連携したプログラムで、楽しく主体的に健康と体力を向上させる態度の育成	○主体的・意欲的に学習に取り組み、練り合い高め合う指導過程の工夫がなされた。 ○問題解決的学習において、自力解決を図る支援の工夫の研究が進んでいる。 ○総合的な学習の時間では、地場産業のホタテをテーマにして科学的に検証している。	○子どもの心情をゆさぶるようなアプローチの工夫。 ○粘り強く自力解決に取り組み、自分の考えをよめる場の工夫。 ○基礎運動能力について、継続して取り組んでいくためには、工夫と内容の改善が必要になる。
(第3分科会) 浜頓別町立 頓別小学校	豊かな表現力を持ち、生き生きと活動する子の育成を目指して ～「総合的な学習の時間」と基礎・基本の関わり～ 学習指導の充実・深化6・7	基礎・基本と総合的な学習の時間の関わりについて整理し、検証授業を通して3年間の研究のまとめとする。	○総合的な学習の時間はワークショップ形式で多彩な発表があり、追求を通して自信の深まりが見られた。 ○総合的な学習の時間のねらいを明確に押さえ、児童の実態を分析し、小規模性を生かし「児童の興味・関心に基づく課題」を選択し、主体的に学習を展開している。	○児童の見取り(方向性、予測)をしっかりとし、指導・支援に見通しをもつこと。 ○児童の発達段階に応じたテーマ設定や指導計画立案(指導と評価の一体化) ○「課題→追求→まとめ→発表」のスパンが発達段階によって異なるため、一層、児童に寄り添う指導計画の立案。
(第4分科会) 中頓別町立 宇曾丹小学校 豊寒別小学校 下頓別小学校 斜内小学校	極小規模の特性を生かし、人間性豊かな子どもを育てる教育活動を進める 学校・学級経営の充実・深化4	・協力教授法(チーム・ティーチング)の工夫を通して子どものよさを伸ばす。 ・自分の考えを広げるために、多くの仲間と話し合わせ、練り合う場の設定、学習指導法の工夫を図る。 ・豊かな心を育てるために、一人一人のよさを認め合い、思いやりの心や社会性を育てるための評価	○複数の教師による支援と多面的な評価を生み出す協力教授の工夫に努めている。 ○表現力および体力など4校の特色を生かしつつ、改善に努めている。 ○子どもが相互に刺激を受け、認め合い・励まし合いにより、さらに可能性を引き出そうとしている。	○4校の指導者の打ち合わせの場と時間の確保。 ○児童の減少による適正な集団の編制。 ○全習と分習のつながり。 ○深まりのある話し合い活動の追及。
(第5分科会) 中頓別町立 敏音知小学校	自ら学ぶ力を育てる指導はどうあればよいか ～自ら学び、豊かに表現できる子どもをめざして～ 学校・学級経営の充実・深化3	・自ら学ぶ意欲を育てる課題解決的な学習活動 ・地域素材を活用した総合的な学習の時間の展開と教育課程の編制 ・多様な表現活動や場の工夫	○一人一人の実態、興味・関心等の記録の累積で、学習への意欲的な取り組みができるようになった。 ○全体計画を基に指導計画が立てられ実践研究が進められている。生活科との関連も明確。 ○地域素材の教材化や人的教材開発に優れている。ゲストティーチャーを積極的に授業に招くことにより、より広い視野と思考が培われていた。	○学習指導分野の課題との関連性を明確にし、充実させること。 ○総合的な学習の時間で培った力を教科学習等に生かし、児童の興味・関心に基づいた学習課題の設定と展開についての研究の深化。 ○教師の「共に学ぶ」姿勢を大切に、情意面での変容を一層追及する必要がある。
(第6分科会) 中頓別町立 小頓別小中学校	自分の思いや願いを生き生きと表現できる子どもの育成 ～個人課題を踏まえた授業を通して～ 学習指導の充実・深化7・8	・個に応じた学習指導過程 ・問題解決的な学習指導過程 ・生徒指導の機能を生かした学習指導 ・特色ある教育課程の編成(主として総合的な学習の時間)	○学習指導過程の工夫・改善が図られ学習意欲の高まりがある。 ○山村留学を取り入れ、人間関係の年毎の変化がある。そのため、生徒指導を充実させ個別化・集団化の指導が適切に行われ効果をあげている。 ○「総合学習」の目標、教育課程への位置付け、活動内容が明確になった取り組みがなされている。地域素材の教材化が進み資料化されていた。	○「個人課題」を児童生徒にも具体的に組みませ、自己評価を図ること。 ○総合的な学習の時間で培った力を明確にする必要がある。家庭や地域の間で「評価の共有化」も必要。 ○個々の児童生徒の思考や活動の跡が残るポートフォリオの作成が必要である。
(第7分科会) 歌登町立 本幌別小中学校	自ら考え、進んで行動する児童生徒の育成をめざして ～身近な環境を手がかりとした教育活動の工夫～ 学習指導の充実・深化6	・地域素材を生かした総合的な学習の時間の展開 ・問題解決的学習を取り入れた学習活動 ・子ども達への適切な評価活動の工夫 ・読書活動の継続的な取り組みの創造	○児童生徒と教師が一体となって授業を展開していた。 ○指導計画を「つかむ、読みとる、広げる」とわかりやすく設定して、課題解決に向かう児童生徒の意欲や態度が育成されていた。 ○小中併置校と少人数複式の特性を生かした全校縦割り集団の機能を活用し生き生きと学習していた。	○課題6を選択し、地域との連携を図っているが、先を見通した計画を立てる必要がある。 ○総合的な学習の時間に読書を取り入れているが、学活で扱うべきだ。 ○小中合同研修のあり方に共通理解と工夫が必要である。 ○保護者への連絡の仕方等、総合的な学習の時間の評価についての研修の深化。
(第8分科会) 豊富町立 豊富温泉小学校	意欲を持って、豊かに表現できる子どもの育成 自己表現を高める学習活動 ～一人一人が尊敬され表現の保障される人間関係を育てる教育課程の改善 学校・学級経営の充実・深化2 学習指導の充実・深化8	・「意欲を持って表現する子どもたちの育成」 ・総合的な学習の時間中で子どもに『意欲』をどう持たせるか ・子どもたちの『意欲』の源はなにか	○地域に根ざした題材をもとにして創り上げる人形劇は14年目となる。郷土愛と郷土に対する理解を深め、自分たちが育った地域を大切にするため、豊富航行郷土史研究部の協力を得て「豊富の民話」を劇化し、発表している。教師と児童が温かい信頼関係に結ばれており、支持的風土に溢れている。	○T・T指導のあり方。 ○小規模校における生活科と総合的な学習の時間の関連のあり方。 ○人材発掘を含めた環境整備の工夫。

分科会 会場校	研究主題 分野・課題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
			成 果	課 題
(第9分科会) 豊富町立 稚咲内小学校	個の課題に応じた教育活動の創造 ～「学び方」を身につける指導を通して～	・指導計画、指導過程、学習課題等の工夫による「学び方」の形成 ・多様な一人遊び学習活動等指導方法の工夫 ・児童を生かす評価の工夫	○算数科、国語科における個々の実施目標及び評価表を作成し、記録化することで一人一人の子どもの実態を客観的に把握できた。 ○一人一人の課題を把握し、学習課題を工夫することで、子ども達の学習に対する興味・関心が高まり見通しをもって学習できるようになった。 ○課題への取り組みや図書館等の利用に見られる調べ方の工夫等、自ら学ぶ力が育ってきた。	○指導過程段階における「学び方」能力一覧をより一層本校の実態に即したものに改善することにより、子どもの興味・関心に基づいた学習課題の設定とその展開についての研究が望まれる。 ○総合的な学習の時間と教科で培った力との関連から検証しながら、指導計画の一層の充実・改善を期待する。
	学習指導の充実・深化5			
(第10分科会) 礼文町立 香深井小学校	意欲的に学び、確かな学力を身につける子どもの育成をめざして ～算数科における問題解決的学習指導法を中心に～	・問題解決的な学習指導過程 ・教材化の工夫 ・自力解決の場を位置づけた指導過程の工夫 ・一人ひとりのよさやもち味を生かす工夫	○学習過程の中で「わたし」を工夫し子どものつまづきやよさをとらえ支援を充実させることができた。 ○学年1名の実態の中で、教師が相手となる確かな質問・意見を投げかけることにより思考を深めさせることができた。 ○各年次の「研究の重点」を本時の授業計画との関わりで記述することにより、子どもの思考を練り上げることができた。	○問題解決的な学習指導過程の「ずらし」、個々の思考過程を把握する「あたり」のあり方についての検証の継続。 ○算数科の基礎的・基本的な内容とその定着の検証。 ○一人一人の学習状況や課題を明確にし、学習過程に活かす実践研究。 ○授業の中での評価のあり方。
	学習指導の充実・深化 5・7・8			
(第11分科会) 利尻町立 仙法志小学校	理論的思考力を育てるには、 どうい指導が有効か ～国語科「練り上がる話し合いのある授業」をめざして	・思考力を育てるための課題設定の在り方・話し合い活動の充実・発問の工夫 ・子ども一人一人の多様な考えを生かす指導方法	○児童の実態をしっかりと把握し、話し合いの質を高める工夫ができた。 ○クライマックスやビナクルの理論を取り入れるなど、指導案の形式についての研究を深化できた。 ○発問の工夫をはじめ子どもに自分の考えをもたせる工夫や考えを発表させる工夫、話し合いの整理の仕方の工夫に取り組み、授業づくりの充実を図ることができた。	○子どもたちの課題意識を生かす場や方法の工夫。 ○子ども自らの課題解決努力の在り方と教師主導からの脱却と支援。 ○「話し合い」を学ばせるのか、「話し合い」で学ぶのか、理論研究の実践方策を深めること。 ○複式形態の同内容指導の在り方と下学年への配慮の仕方。
	学習指導の充実・深化7			
(第12分科会) 枝幸町立 岡島小学校	自ら主体的に行動し、心豊かで逞しく生きる子どもの育成 ～児童の生活実感・体験的活動を大切に～	・間接指導の効果的な指導方法 ・効果的な学年別指導計画の工夫 ・学校の特色を生かした学習(鮭・動物) ・今日的な課題に対応した学習	○総合的な学習での発表の態度や声が堂々としてきているなど、確かな表現力や発表力を培ってきている。校長をはじめ全教職員で育てるべき力や課題を共通に意識し、子どもと関わっている様子がうかがわれた。 ○直接指導と間接指導、わたりとずらしなど複式学習の指導過程の基本を踏まえながら、児童の実態に応じた指導過程の工夫改善に優れていた。	○学習指導分野の各課題を、より整備しながら充実させていく必要がある。 ○生活科との関わりについての学習や研究が必要である。さらに全校的な活動と学年毎に行う活動の関わりなど全体計画作成について研修が必要。 ○評価についての研修を深める必要がある。
	学習指導の充実・深化8			
(第13分科会) 稚内市立 富磯小学校	心豊かに表現し合い、自ら追及する子どもの育成 ～「なぜ」を持ち、発見のある授業をめざして～	・単元の中心課題から一人一人が個々の課題を持ち、主体的に追究活動を行い自分なりの成果をもたせる。 ・それらの成果の交流をもとに、さらに中心課題に迫っていく学習をめざして研究している。	○教師、児童相互に厚い信頼関係、支持的風土が備わった学校である。 ○教科指導とともに、サケの飼育や金管バンド等、特色ある教育活動が展開。 ○研究計画の意図が明確で、一丸となった課題説明。 ○話し合い活動を重視し、自己評価カード等の活用で児童の変容を捉える評価。	○特色ある教育活動(教科指導の研究、サケの飼育学習、金管バンド)の物理的負担が懸念される。 ○上記に関わって、教育課程編成に配慮。
	学習指導の充実・深化7			
(第14分科会) 稚内市立 上勇知小中学校	明るく、生き生き、はつらつと活動し、たくましく生きる力を育てる教育活動の実践研究 ～集団の中での「個」に応じた指導の充実～	・3年目になる研究主題は「元気な子どもであってほしい」という願いを込め、今年度に至った過程の検証。 ・総合的な学習の時間で実践を進めてきた内容。 ・小学・中学の発達の創意を踏まえ小中の各部会を中心に研究実践してきたことの成果と課題等。	○教師と児童が温かい信頼関係にあり支持的風土がある。 ○総合的な学習の時間の位置付けが明確で全校の取り組みと、学級単位とがしっかりと区別されている。 ○人材リストが整備されており、地域のほとんどが網羅されている。 ○教科でも地域素材が取り上げられ、子どもの課題意識、主体性が顕著な学習活動を展開。	○情報の選択能力の指導。 ○個別の課題に対応できる支援体制や評価、学習環境の一層の整備に配慮。
	学習指導の充実・深化6・7			
(第15分科会) 稚内市立 沼川小中学校	地域に根ざした教育活動の創造 ～一人一人が意欲的に活動し、助け合いながら、生き生きと学び合う学習指導の工夫～	・産業体験学習を核としたNタイム(総合的な学習の時間)の推進 ・「考える過程」を重視した課題解決的な授業づくり *課題設定での意欲づくり *解決・努力での児童生徒の思考読み	○児童生徒の地域社会に対する興味・関心・意欲を向上させ、地域愛を高めている。 ○児童生徒の課題意識が高く、体験学習の効果を引き出している。 ○学年毎の達成目標と縦割り班活動の指導目標が明確で、学習がより効果的である。 ○自らの言葉で学習や思いを整理し、発表力を付けている。	○生活科との関連を明確にし、Nタイムの効果的な活動の一層の改善。 ○考える過程を重視した授業づくりでは、どの学習段階に焦点を当てるかをさらに共通化。
	学習指導の充実・深化6・7			
(第16分科会) 稚内市立 増幌小中学校	小中一貫教育を通して、主体的に学び活動する子の育成はどうあるべきか ～21世紀に生きる子を育てる教育課程編成と結んだ授業づくりとめざましタイム、ふれっぷタイム(総合的な学習の時間)の創造～	・学び合いを核とした基礎的・基本的な学力向上の指導法 ・家庭・地域社会との連携による自立の力、思いやりと福祉の心の育成 ・個々の発達課題に応える指導計画の改善と充実	○小中学校が共通の目標(基礎学力・学び合い・話し合いの力・表現力・自立・福祉)の具現化をめざし、共同研究の推進と充実を図ることができた。 ○「めざましタイム」の展開などを通し、基礎学力(読み・書き・計算)の定着化を図ることができた。 ○「ふれっぷタイム」を通して小中一貫した総合的な学習の時間の展開と目標の具現化を進めることができた。	○「めざましタイム」の時間と関連教科の指導計画との整合性を図る教育課程の編成。 ○総合的な学習の時間のねらいとそれに即した活動内容と他教科・領域との関係の整備。 ○基礎学力の育成と総合的な学習の時間との関連の明確化。
	学校・学級経営の充実・深化2			

② 宗谷大会の成果と課題

成 果 学校・学級経営

課題1 <<児童生徒の個性を生かす経営理念と特色ある教育計画の創造を図る。>>

- ・学校教育目標具現化に向けて有機的で調和のとれた新教育課程の編成を行うことが全ての学校で求められている。試行期間を経ている総合的な学習の時間は、三領域との関連付け、および目的の明確化がなされており、特色ある教育活動計画が作成されている。
- ・豊かな自然を生かし、地域素材を教材化、地域（地元の高校との連携の実践も含む）と関わりをもつ研究の進化、開かれた学校づくりが強化された。

課題2 <<地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と共に豊かな心を育む教育活動の推進を図る>>

- ・総合的な学習の時間などで地域の様々な人々と接することを通して、コミュニケーションが豊かになり、会話を楽しむようになった、心豊かに育っているという実践例が示された。

課題3 <<郷土の自然・文化・伝統等を重視し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。>>

- ・地域に密着した課題を設定し、地域の人々や専門機関等の教示・支援を得ながら課題解決に導く実践が多く見られ、ふるさとへの愛着やふるさとを豊かにする夢を持つように育ってきている。まさしく、地域は総合的な学習の時間の宝庫といえることを示してくれた。
- ・地域から素材・課題を見いだすなど総合的な学習の時間のねらいを明確にもち、生活科との関連ももたせた全体計画の作成がなされている。
- ・礼文太鼓など、子どもたちが自信をもって披露し、まさしく地域文化の担い手であるという自覚を培い、郷土の伝統を大切に守り育てている実践が見られた。

課題4 <<学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。>>

- ・今大会では全ての会場校、市町村が近隣校との共同研究方式をとったといえる。
- ・集合学習においては、各校の教育課程やそれぞれの独自性を尊重しつつ、様々な学習形態を工夫し、複数体制を組むなどねらい達成に向けて共同研究が進められている。

学 習 指 導

課題5 <<児童生徒の興味・関心、意欲、態度などを重視し、一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。>>

- ・算数科や国語科においては、子どもの実態を正確に把握する工夫（客観的評価の重視）を講じた上で、個々の実態に即した目標や指導計画を作成する取り組みが見られた。
- ・個々の課題や考え方を十分に踏まえた学習課題の工夫が随所で見られ、記録の累積化が図られている。
- ・学年一人であっても十分に吟味された的確な発問、意見の投げかけにより、思考を深めさせることができた。
- ・周到に作成された学習指導案に基づき、子どもの思考を練り上げることができた。

課題6 <<地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。>>

- ・特に総合的な学習の時間の展開はかなり意欲的な試行が展開されており、本格実施といえる様相を見せている。
- ・ワークショップの考えを取り入れるなど、多様な発表方法を工夫することにより、追求過程も含めた自信の深まりが見られた。
- ・身近な環境を手がかりに意欲的に研究を進め、指導計画を「つかむ、読み取る、広げる」と分かりやすく設定していて、児童生徒の課題解決に向けての意欲・態度を高めている。
- ・地域の方々ほとんどが網羅された人材リストが整備されている実践例もある。
- ・教科でも地域素材を積極的に取り入れることによって、子どもの課題意識、主体性の濃い学習活動が展開されている。

課題7 <<課題意識をもち、学び方を身に付け、仲間と共に進める問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。>>

- ・多くの会場校で公開された教科の学習において、特に算数科では算数的活動を大切にし、ヒン

トカード、ワークシート等を活用したり自力解決、共同追求など、指導法の創意・工夫が随所に見られた。

- ・問題解決的学習を実践している学校が大半で、自力解決を図る支援のあり方に焦点を当てた研究が盛んである。
- ・児童生徒一人一人の問題への気付きを大切に、課題把握がされやすいように指導過程の工夫・改善を図ることによって学習意欲を高める試みがなされている。
- ・指導過程の「わたり」を工夫し、子どものつぶやきやよさを確実に把握し適切な支援を行っている。
- ・話し合い活動を重視し、自己評価カードなどの活用で児童の変容を捉える評価の工夫が盛んになされている。
- ・仲間と共に進める学習を成立させる基盤となる教師と子ども相互の厚い信頼関係、および互いに認め合い励まし合える支持的風土に満ちている学校・学級経営を大切にしていることが会場校全てに共通している。

課題8 <学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。>

- ・共通して言えることはどの会場校も「思考力」、「表現力」をあらゆる領域で重視しており、低学年でも相当しっかりした発表力を付けさせることが可能なことを示した実践も見られた。
- ・相互評価活動を通して意欲につながるように自信をつけさせたり、友達によさに気付かせたりして、望ましい人間関係の醸成に結びつけている。
- ・総合的な学習の時間では地場産業のホタテを主題にして科学的に検証している。総合的な学習の時間の目標、教育課程への位置付け、活動内容が明確になった取り組みがなされ、地域素材の教材化が進み資料化されている。
- ・管内的にユニークな創作活動「人形劇」の実践では、郷土愛と郷土理解を深めている。地元の高校郷土史研究部の協力を得て「民話」を素材にして毎年発表している。

課題 学校・学級経営

- ・小規模校だからできる実践の優位性が随所に見られ、豊かに展開されているが、3特性（へき地・小規模・複式形態）を生かす実践・研究の努力は今後も一層続けていかなければならない。
- ・総合的な学習の時間については、特別活動や生活科との区別・関連は実践面において明確に押さえて試行している。しかし、今後、実践を重ねていくうちに、ねらいが拡散したり、学習の変質が生じないように教科や特別活動など他の領域との関連を明確にした指導計画や研究・実践をしていく必要がある。
- ・コンピュータが教育環境の中で占めるウエイトが高まる中、どのように教育活動に取り入れ、活用を図っていくか。特に総合的な学習の時間を進めていくためには、いろいろなリテラシー「読み書き能力。また、生きる力を育成する基礎・基本を活用する能力」が必要になってくる。そのため、『学び』のリテラシーの学習を意識して行う必要がある。コンピュータでいえば、インターネットから得られる情報を選択する能力、学習等を組み込んでいく必要がある。

学習指導

- ・少人数学級における「話し合い・練り合い」の工夫・改善点は児童数が減少する状況で一層の工夫・改善が必要になってくる。
- ・一人一人を生かす指導のための評価の工夫・改善においては、「総合的な学習の時間」では特にポートフォリオなどを生かした評価の実践・研究が焦点の一つになるだろう。

4 第51回留萌大会の成果と課題

① 留萌大会分科会のみまとめ

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第1分科会) 幌延町立 間寒別小中学校	自分の思いを伝え合い、互いに高め合う子供の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の系統化 ・指導過程における情報機器の活用 ・情報活用の実践力を高める授業づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○9年間を見通し、発達段階に応じた指導内容の系統化と日常実践は、「多様な方法で情報収集する力」「調べた情報を生かして自力解決する力」「個々の発想を生かして表現する力」「友達の発表から自分の考えを発展させたり、深めたりする力」などが子どもたちに身についてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べた情報を正しく理解するための基礎・基本の育成 ○友達の意見を聞き、考えを修正補完しながら、課題解決にせまる話し合い活動 ○評価方法・基準の検討と有効な評価
	学校・学級経営の充実・深化 4 学習指導の充実・深化7			
(第2分科会) 天塩町立 啓徳小学校 (会場校) 更岸小学校 北産土小学校	仲間と共に高め合い、生き生きと活動する子供の育成 ～「集合学習のよさ」を生かした授業づくり～	<ul style="list-style-type: none"> ・「集合学習のよさ」を生かした授業づくり ・学習活動の多様化 ・支援の多様化 ・社会性の育成 ・協働化、共同化 	<ul style="list-style-type: none"> ○集合学習のよさを生かした授業の具体的な方法や活動内容が明確化してきた。 ○共同研究の方法(Eメールの活用など)、授業におけるT・Tの支援の在り方、年間を見通した指導計画、授業の進め方など細部にわたって深まりが見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科、領域における集合学習のよさを生かしたよりよい教材・指導方法・評価の追及 ○集合学習と各校の指導計画の関連性 ○研究推進の方法(共通理解の因り方、推進の効率化など)
	学校・学級経営の充実・深化 4			
(第3分科会) 初山別村立 豊岬小学校	課題意識をもって、自ら意欲的に学ぶ児童の育成 ～自ら考える力の定着をめざした算数科の学習指導～	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決力・学び方を育成するために、 ・見通しの立て方 ・自力解決の在り方 ・振り返りなどの学習活動の継続化 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数科における「わたり・ずらしのある四段階形式」が児童に定着し、自ら学習を進めることができた。 ○間接指導時における、ヒントカードの有効性が確認された。 ○ホワイトボードによる表現が増した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価の基準と方法 ○同時間授業の取り入れ ○レディネステスト・ホワイトボードなどの有効活用 ○ヒントカードの個別化 ○個の力を引き出す支援と評価
	学習指導の充実・深化 7・8			
(第4分科会) 羽幌町立 幌北小学校	自ら考え、行動する子どもの育成 ～「総合的な学習の時間」と「教科学習」の両面から～	<ul style="list-style-type: none"> ・教科からの発展的課題を「総合的な学習の時間」で解決を目指す試行 ・「教科」、「総合的な学習の時間」と関連化を図った指導計画の位置付け 	<ul style="list-style-type: none"> ○「教科」+「総合」の実践を通して、「自分の課題を作り、解決することは面白い」という主体的な学びの意識が芽生えてきている。 ・課題の多様化・個性化、資料収集の多様化・効率化、表現活動の多様化が見られた。 ・年間指導計画の内容整備により、次年度への見通しが立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科の基礎・基本を踏まえた上で、「発展的な課題」のおさえを明確にし、「教科」+「総合」の実践を集積 ○「教科」+「総合」でねらう「視野の拡大」「主体的な学びの姿勢」のおさえを発達段階に応じて明確化、等
	学校・学級経営の充実・深化 1・3 学習指導の充実・深化 6・7			
(第5分科会) 小平町立 臼谷小学校	自ら学び、豊かで確かな力を育む子供の育成 ～体験的活動を通して、子供たちが生き生きと学び合う授業づくり～	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を高め、主体的に解決する学習の在り方の改善 ・生き生きとした学習を展開するための指導方法と評価の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な物で解決する必要性のある物に取り上げた課題提示は、子どもに興味・関心をもたせ、学習意欲を高めることができた。 ○「振り返りカード」の改善・工夫により、学び方が見通せるようになり、主体的に学習する意識が芽生えた。 ○実態テストの評価を支援計画に生かすことにより、個々の子どもにとって、生き生きとした学習が展開できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の押さえを明確化し、焦点化した研究の推進 ○「振り返りカード」の改善・工夫 ○実態テストの評価をより具体的に支援計画に生かし、一人一人の思考の流れに沿った授業の組み立て
	学習指導の充実・深化 5・6・8			

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第6分科会) 小平町立 本郷小学校	「伝え合う力」を育てる学習指導の工夫 ～国語科を中心とした言語活動の充実をめざして～	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科での言語能力の基礎・基本の指導 ・表現力の育成(発表力の工夫) ・全教育活動での発表活動の工夫や改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話す」「聞く」「書く」という「伝え合う力」の基礎・基本の習得の場を意図的に学習過程への位置付けは成果が見られた。 ○発表の場の改善や発表の仕方を工夫することで、子どもの表現力が向上してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科と全教育活動を関連させた年間指導計画の作成 ○国語科で習得した「伝え合う力」の他教科への取り組み方(場面設定)について
	学習指導の充実・深化 5・7・8			
(第7分科会) 留萌市立 礼受小学校 (会場校) 幌糠小学校 藤山小学校 三泊小学校	主体的に学び合い、たくましく生きる心豊かな子供の育成 ～一人一人の子供を生かす集合学習のあり方を求めて～	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の研究課題に基づいた集合学習の在り方 ・集合学習における教師集団の協力体制と効果を高める指導方法のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽・体育の指導体制が充実された。 ○全・分習の機能を生かした指導計画作りは、有効であった。 ○児童の願いを取り入れた学習展開の工夫や児童間の交流(インターネット等の活用)は、一人一人のよさが生きる主体的な学びづくりとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導計画の改善・充実 ・学年に応じた目標設定 ・各校の指導計画への位置付け ○一人一人のよさが生きる、主体的な学びづくり(リーダーの育成他) ○協力教授組織の内容の明確化
	学校・学級経営の充実・深化 3・4 学習指導の充実・深化7			
(第8分科会) 増毛町立 信砂小学校	創造する喜びを知り、自ら探求できる子どもの育成 ～話し合い活動を位置付けた合同学習の工夫～	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の工夫 ・教材教具の工夫 ・T・Tの工夫 ・学習過程の改善 ・よさを認め合う話し合い活動の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の拡大による共同制作に取り組むことで、一つのテーマに対して多様な考えに触れ、試行錯誤しながら活動することができた。 ○「中間発表会」「まとめの発表会」の話し合い活動を位置付けることで、自分の感想や考えを発表したりする態度が育ってきた。 ○異学年集団での取り組みにより、高学年は小集団の中心、低・中学年は高学年と協力しながら作品を創り上げる喜びを味わうことができ、学習活動に対する意欲がたかまりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合同学習における基礎・基本の定着の在り方 ○話し合い活動をより深めるための支援の在り方と教師の関わり方 ○図工科の研究推進と、話し合い活動を位置付けた体育科、音楽科の研究の取り組み ○合同学習を位置付けた年間指導計画の取り組みや地域素材の活用
	学習指導の充実・深化7			
(第9分科会) 増毛町立 舎熊小学校	一人一人がよさを生かし、自ら学び考えを深め合い行動する子供の育成をめざして ～地域のよさを生かす総合的な学習の時間を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の工夫 ・体験的、問題解決的な学習展開の工夫 ・評価や効果的な支援の工夫 ・学習環境の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふるさと」として総合的な学習の時間のスタイルが確立。 ○テーマとの出会い、さらに、課題発見能力を身に付けたことで子どもたちが学習へ意欲的に取り組むようになった。 ○地域の素材や人材活用により、課題をより身近にさらに課題を解決することにより、地域への関心が高まってきた。 ○グループ活動を通してリーダーの力が発揮された。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価の在り方 ○今後(次時)の活動の見通しを子どもたちが見つけていける学習の流れ ○子どもたちも使える地域マップ完成 ○テーマとの出会い・体験の工夫子どもの欲求への対応の見直し他
	学習指導の充実・深化 6・7・8			

② 留萌大会の成果と課題

成 果 学校・学級経営

課題1 <<児童生徒の個性を生かす経営理念と特色ある教育計画の創造を図る。>>

- ・学校の教育目標の具現化に向けて、学習指導要領の趣旨やへき地・複式教育の三特性を踏まえ、一人一人の個性や特性を生かした各学校の特色ある教育計画に基づいて、実践的な研究の深まりが見られた。
- ・恵まれた地域の環境に目を向け、その素材を活用した体験的な学習や問題解決的な学習、総合的な学習の時間を重視するとともに、子どもによる自主的・創造的で多様な教育活動を通して、一人一人が自分らしさを発揮しながら豊かに学ぶ姿を見ることができた。

課題2 <<地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と共に豊かな心を育む教育活動の推進を図る>>

- ・身近な地域に視点をあて、地域との連携を図る中で地域の教育力を学校経営に生かす試みが多く、多くの学校で実践され、子どもたちに自分の地域のよさや特性に気付かせたり、人々とのかかわりを通して、豊かな感性を育むことができた。
- ・小規模校の少人数での活動を全校学習や近隣校との集合学習など、学習活動に広げることにより、集団の協力関係や連帯感を強めるとともに、地域の人々との多様な交流を通して社会性などを助長する活動が進められた。

課題3 <<郷土の自然・文化・伝統等を重視し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。>>

- ・郷土の伝統や身の回りの素材を教材とし、体験的な活動を積極的に取り入れることにより、子どもの興味・関心、意欲が醸成され、自ら課題を発見したり、解決したりするなどの主体的な学習や学び方が身についてきた。
- ・インターネットや観察・聞き取り、ふれあいや交流を通して学んだことの記事化や発表など、表現活動を取り入れることによって、多様なものの見方や考え方、感じ方が生まれ、意欲や表現力、思考力・判断力などの向上を図ることができた。

課題4 <<学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。>>

- ・近隣校・併置校・異校種間との共同研究を通して、教育活動の中で求める子ども像や授業づくりの発想などを相互理解することによって、より適切な支援活動ができるようになり、子どもたち一人一人の思いや願いを生かす授業を展開することが有効となった。
- ・集合学習においては、各校の教育課程や独自性を踏まえつつ、様々な学習形態や支援体制の工夫により、学習者の思考や視野が広がり、集合学習の成果が見られた。

学 習 指 導

課題5 <<児童生徒の興味・関心、意欲、態度などを重視し、一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。>>

- ・子どもの実態や三特性を踏まえ、一人一人に基礎・基本の定着、自ら学ぶ態度や思考力判断力・表現力を育成するための指導内容などの精選・重点化が図られていた。
- ・地域素材の活用や体験活動・子どもの願いなどを生かし、課題作りや課題解決などの学び方を習得させるために、同単元、学年別指導等の学習形態を位置付けた指導計画の改善・工夫が図られた。

課題6 <<地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。>>

- ・地域の豊かな自然や人的・物的環境を生かした教材として活用できる内容と、それに関わる素材を明らかにし、指導計画へ位置付けることによって、教育活動への地域素材の取入れが容易になり、子どもたちの学習に対する意欲化が図られた。

課題7 <課題意識をもち、学び方を身に付け、仲間と共に進める問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。>

- ・子どもたちに課題を把握させ、自ら解決する喜びと学び方を身に付けさせるために、一人一人の思考過程や判断力・表現力を把握し、それを生かした学習過程づくりやヒントカード・ホワイトボードなどを取り入れた問題解決的な学習の展開の工夫・改善が図られた。
- ・子どもの発達段階を重視した学年別指導を通し、指導の系統性を明確にとらえ、「個人カルテ」の活用や自己評価・相互評価など多様な評価方法によって、指導と評価の一体化を図り、指導効果を高めている。
- ・「教科」と「総合的な学習の時間」の関連を明確にとらえ、課題づくりなどの相互補完の趣旨を生かした実践により、子どもたちへの基礎・基本の習得や視野の拡大を図ることができた。

課題8 <学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。>

- ・子どもの実態に即した教材開発・教具の活用とマルチメディアやインターネットなどの機器の積極的な活用や多様な評価方法によって、個に応じた学習が充実し、「よさ」を発揮しながら学習目標を達成する指導方法の工夫・改善が図られた。
- ・学習の場を校内から地域、そして他の県にまで広げた指導計画や体験的な活動を重視した展開は、子どもの学ぶ意欲や課題解決力の向上など、主体的な学習態度の育成に有効である。
- ・評価の目的や方法を明確に指導計画に位置付けることにより、一人一人の子どもの実態やつまずきが見え、それが支援活動へとつながり、さらに子ども同士の評価を工夫することによって、一人一人の学習活動がより主体的になってきた。

課 題 学校・学級経営

- ・地域の教育素材や人材を授業の中でさらに有効にするために、より開かれた学校の推進に努め、地域との連携を一層密にする必要がある。また、指導計画の作成にあたっては、「総合的な学習の時間」を含めた各領域間の関連や学年・単元の系統を重視することが大切である。
- ・小規模校だからできる実践が随所で展開され、三特性（へき地・小規模・複式）を生かす実践・研究は今後も一層推進されていくが、学習者の側に立った四段階・わたり・ずらし・直接、間接指導、学習集団の編制の在り方など、目標や実態に合わせて弾力的な見直しや発想の転換による改善が必要である。
- ・過疎化の進行による極小規模校化が進む中で、集合学習や交流学習に、マルチメディアの活用も視野に入れ、全職員の共通理解、組織化、研修時間の確保、行政への働きかけなどの課題解決が急務である。

学 習 指 導

- ・子どもの学習意欲を高め、発表力や表現力を育成するために、学習課題、学習方法、学習成果の共有化など、学習集団から学ばせる指導過程の一層の工夫が必要である。
- ・少人数における「話し合い・練り合い」などの集団化は、児童数が減少する状況の中で一層の工夫・改善が必要になってくる。
- ・一人一人を生かす指導のための評価の一層の工夫が必要である。特に「総合的な学習の時間」などのポートフォリオなどを活用した評価の実践・研究も重要となる。
- ・今後、コンピュータなどの導入による教育活動が高まる中、効果的な活用方法の実践・研究やリテラシーの育成など意図的・計画的な指導が必要となり、発達段階や個に応じた指導計画への位置付けが重要となる。

5 第52回渡島大会の成果と課題

① 渡島大会分科会のみまとめ

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成果	課題
(第1分科会) 松前町立 館浜小学校	自ら考え、生き生きと学習する子どもの育成 ～自ら学ぶ力を育てる算数科の学習指導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の思いや願いを生かす問題設定、課題提示の工夫 算数的活動を効果的に取り入れ、自力解決を促す学習教材や学習環境、学習指導の工夫 表現の仕方の工夫と自他の認め合い 	<ul style="list-style-type: none"> 実態調査を通し興味関心を促す問題設定をしたことで学習に対する意欲が高まった。 学級の実態を踏まえ同時間接指導を取り入れ、一人一人への支援がより効果的に行えた。 算数的活動を取り入れることで子どもの多様な考えが生まれ自力解決へとつながった。 学習の仕方、話し合いや発表・比較検討の仕方が身に付くことで、自主的な学習の進め方が定着してきたと同時に表現力も高まってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の在り方とその有効な生かし方 教材構成の選択、教科書との関連、問題と課題の設定の在り方
	学習指導の充実・深化 5・7			
木古内町立 鶴岡小学校成	主体的に学び、豊かに思いや考えを表現できる子の育成を目指して ～国語科・集会活動を軸として～	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を大事に、子ども一人一人の思いや考えを大切に授業づくり 意見や考えを出し合い、話し合いの中で練り上げる授業作り 体験活動を通して得た感動を、表現活動としてみんなに伝える集会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本である「読むこと」「書くこと」を朝学習で取り組み授業や他の活動に積極的に取り組む力が付いてきた。 学習リーダーの育成により、間接指導時に自分たちで学習を進めていけるようになってきている。 基本話形と練り合いのおさえを明確にしたことで、素直な発表と徐々に学習内容を深める場面がみられるようになった。 集会活動は、目的意識をもたせることで、工夫や方法など多様な表現がみられる。聞く側も発表のよさや感じたことを話すことで意識的に聞くようになりつつある。 自己評価・相互評価に加え、評価規準の活用を始め、個に応じた指導・支援の在り方を明確にできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な力の個人差解消の手立て 練り合いを行う具体的な場面の設定、発達段階に応じた取り組み方 学習リーダーの育ち方に応じた支援・指導の在り方 学校や学級にあった「評価規準」への取り組みの検討
	学習指導の充実・深化7			
(第3分科会) 上磯町立 石別小学校	生きる力にあふれる子どもの育成 ～一人一人のよさが生きる授業を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 的確な見取りの方法 自己評価や相互評価の効果的な支援 評価を生かした適切な支援 複式の特質を生かした指導の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に期待感をもち、自らの力で課題に取り組む意欲を高めた。今までの経験から、総合的な学習について見通しをもった取り組みができるようになってきた。 個のよさを明確にし、子ども達に広げることによって互いのよさ、違いや成長を認め合う雰囲気できた。また、認められていることにより、さらに力を発揮できるようになってきている。 支援と評価の一体化を図ることにより、一人一人のよさを生かすことができた。また、個への支援を考えた授業の組み立てが意識できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数での話し合い、練り合い活動を高める、指導計画、学習形態、学習方法の工夫改善 どんな力を育てるかをねらうスキルを明確に押さえて記載する指導計画表 教科、領域との関連では、内容を押さえる 育まれたよさを目標に照らして見取り、評価するアプローチ法
	学習指導の充実・深化8			
(第4分科会) 上磯町立 沖川小学校	一人一人が生き生き学び輝く子の育成 ～生きてはたらく力を育てる「ふれあい学習」を通して～	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの主体的な学びを育む「総合的な学習の時間」 支援、評価の在り方・年間指導計画の見通しと学習活動の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 目標との関連を明確にし、評価・支援の系列表として一覧に整え、授業に活用し効果的である。 子供の興味に応じた探求する学びの積み重ねで分かりやすく伝えようとする表現力が育っている。 高齢者や障害のある児童を対象として関わり交流し合う学習の積み重ねにより、相手の立場を理解し、行動しようとする意識の高まりがうかがえる。 夢咲きタイム、そばを育てよう、交流学習がバランスよく児童の思いや願いを受け止め、個々の活動を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な活動を促し、活動を深めることのできる魅力ある単元構成、活動内容の引き続きの検討 切実な課題に高めるための教師のかかわり方 相互評価や自己評価の質の向上
	学習指導の充実・深化8			
(第5分科会) 七飯町立 軍川小学校	自ら考え、探求していこうとする子どもの育成 ～総合的な学習を通して～	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特性を生かした年間指導計画の作成 主体的な学習の支援と評価 地域素材を取り入れた授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域の実態に根ざし、児童一人一人の思いや願いを大切に体験活動で主体的取り組みが生まれた。 地域人材の活用で、教育活動が豊かになり、また、地域に教育活動をアピールできた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根ざした調査方法や観点の一層の明確化 町複式5校で作成したALT活動計画の活用と改善
	学習指導の充実・深化 6・7			

分科会 会場校	研究主題	研究内容 (要旨)	各分科会における成果と課題(要旨)	
	分野・課題		成 果	課 題
(第6分科会) 森町立 濁川小学校	豊かに表現できるこの育成 ～ふるさと学習・教科指 導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を取り入れた「総合的な学習の時間」の年間指導計画の推進 ・複式授業の効果的な学習方法の追求 	<ul style="list-style-type: none"> ○物怖じせず発表する力が育ってきている。 ○総合的な学習の時間では、学習への積極性、地域のサポート体制の確立、ゲストティーチャーへの関わり方、グループ化の工夫がなされた。 ○算数科では、振り返りカードの工夫、わたりのタイミング、体験活動の効果、伝える学習の積み重ねの有用性が確かめられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考え方を引き出すための工夫 ○表現力を高め、深めるための方策・場 ○思考・判断力の高まりによる表現力の育成
	学習指導の充実・深化6			
(第7分科会) 八雲町立 浜松小学校	自分の思いを素直に表現しながら、主体的に追求する子どもの育成 ～国語の指導を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」をもたせた学習活動を展開することで児童の主体的学びの構築 ・間接指導にリーダー学習等を取り入れ、課題追求する中で主体的学びを継続 ・コミュニケーション能力の育成 ・安心して表現できる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」をもたせる学習が定着し、課題に対して前向きに取り組む姿が出てきている。 ○リーダー学習が定着し、自分たちで学習を進めようとする積極性が出てきている。 ○自己表出を醸成する学校風土の中で主体性が生まれ、表現力の向上につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人、二人だけの学年でのコミュニケーション能力育成の手だて ○課題解決の見通しや発想の広がりを持たせるための手だての検討
	学習指導の充実・深化7			
(第8分科会) 八雲町立 黒岩小学校	主体的・創造的に学び、自分の生き方を考えることができる子の育成 ～「総合的な学習の時間」・「生活科」の学習を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・3能力(課題意識・課題解決・課題発展)を育成するための指導計画の作成と学習展開 ・小規模校の特性を生かした児童・教職員全員参画による評価と支援の実践 ・課題解決と課題発展のつながりから「自己の生き方」に迫らせる「地域にたちかえる学習」の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの特色ある教育活動を生かし、生活科・総合的な学習の時間の趣旨、ねらいを踏まえた活動が実践されている。 ○3段階の指導過程と3能力の育成を総合的な学習の時間の基本と捉え、目標、児童に身に付けさせたい能力、学習内容など、学校としての基準が明確になっている。 ○価値ある課題を学ぶことに配慮するとともに、児童の主体的な活動の保障、教師の行き届いた支援が行われている。 ○地域素材を教材化と豊かな体験の保障で、児童の課題が明確になり、問題解決的な学習と学び方が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間をより充実させるために、問題解決的な学習や体験的な活動の定着、学び方の習得、現代的な諸課題を学ぶ意欲の高揚化、各教科との関連を明確にした単元指導計画の作成 ○総合的な学習の時間の評価基準の具体化、評価の実践充実、指導の成果としての児童の姿を明確にすること。
	学習指導の充実・深化6・7			
(第9分科会) 長万部町立 静狩小学校	学習課題の解決に向けて、進んで活動する子どもの育成 ～地域素材を生かした総合的な学習の時間を通して～ ～少人数・複式の利点を生かす算数科の授業づくり～	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心を最大限に生かすテーマ設定と学習過程のあり方 ・縦割り班を取り入れた活動形態の工夫 ・個人カルテを利用した児童の支援計画 ・学習のしかたを身に付ける指導のあり方 ・個に応じた支援のあり方 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態を十分に把握し、興味関心を喚起する学習問題の提示で、主体的に学習するようになった。 ○支援の効率化のため、様々な指導過程の組み合わせを試行し、児童がじっくり考えることのできる授業となった。 ○学習問題の選択制やコース別学習で個に応じた学習となった。 ○様々な操作活動を取り入れ、児童の思考の手助けとなった。 ○全職員がT Tで取り組むことによって、きめ細かい支援が可能になった。 ○児童が課題を見つけ具体化するための様々な支援を工夫することで児童が自分の課題や追求方法を明確にして取り組むことができるようになった。 ○支援会議によって個に応じた支援が充実してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価方法や各時間の評価規準を再吟味し、児童の力がどれだけついているのかを明確にする。 ○自己評価、相互評価の工夫をし、児童の評価力の向上をめざす。 ○児童の発表能力、表現能力の向上をめざす。 ○間接指導の効率化のための多様な教材や機器の使用のあり方 ○総合的な学習の時間と各教科で付けた力の関連性の明確化。
	学習指導の充実・深化6・7			

② 渡島大会の成果と課題

成 果 学校・学級経営

課題1 <児童生徒の個性を生かす経営理念と特色ある教育計画の創造を図る。>

- ・それぞれの学校の教育目標の具現化に向け、学習指導要領の趣旨とへき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、地域に根ざしたふるさと学習などの実践的な研究の取り組みがなされ教育計画の充実が図られた。
- ・地域の環境と素材を活用した教育計画をもとに、一人一人の個性を生かした多種多様な体験活動を重視しながら展開された総合的な学習の時間や全校集会活動などの特別活動の実践を通して、生き生きと活動し豊かに学ぶ子供の姿を見ることができた。

課題2 <地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と共に豊かな心を育む教育活動の推進を図る>

- ・地域に基盤を置いた学校経営が実践され、郷土の自然、文化、伝統などへの子供たちの気付きや学びを広げたり深めたりすることにより、郷土を愛する心の育みにつなげることができた。
- ・「町の先生」などの人材や地域の自然、文化、施設などを積極的に活用し触れあうように、地域素材を教材化し、創意を生かした教育活動を進めることにより、子供たちに社会性や豊かな心を育むことができた。

課題3 <郷土の自然・文化・伝統等を重視し、社会の変化に対応する開かれた学校・学級経営の創造を図る。>

- ・郷土の自然・文化・産業・伝統などの教育的に価値のある素材を教材化し、地域の有識者やそれらに携わる人々を招聘した「ふるさと学習」を意図的・計画的に展開することにより、子供たちの学習意欲が高まり、自主的・創造的に学び豊かに活動する姿が見られた。

課題4 <学校の実態に即した校内研修と近隣校との協力・協業化による共同研究の充実を図る。>

- ・校内研修で常に日頃の目標の到達度や学習状況を交流し合い、指導内容や指導計画の見直しや支援の在り方などを協議することを通して、教職員の共通理解と指導力の向上を図ることができた。
- ・各分科会では、町内複式校や町研サークルまたブロック校が協力して計画的に研修を積み重ね、指導案検討や模擬授業を実施することによって、共同研究の充実が図られ成果をあげることができた。
- ・教職員の視野の拡大と道へき・複連の研究に対する理解が深まり、実践的な研究を通して課題を解決する意欲や態度をもつとともに、共同研究の中で積極的に行われた情報の交流を通して、自らの資質や能力を高めながら、従来の指導類型や集合学習・交流学习合同学習の在り方を見直す機運が生まれた。

学 習 指 導

課題5 <児童生徒の興味・関心、意欲、態度などを重視し、一人一人の個性を生かす指導計画の改善・充実を図る。>

- ・「総合的な学習の時間」の授業を公開した学校では、その「時間」の特質や児童の発達段階の特性や実態を明確にし、個々の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を促す指導計画を作成して、充実した学びを形成することができた。
- ・教科の公開授業に取り組んだ学校では、基礎的・基本的な内容の重点化を図り、児童一人一人の実態の把握に努め、学習に対する興味・関心を考慮した課題づくりなどの数多くの点で指導計画の改善が図られ、児童に「自ら学び、自ら考える力」を身に付けることができた。
- ・個への支援の在り方を全職員で確認し合い、様々な教育活動の場において共通認識や意志の疎通を図った指導が可能になった。

課題6 <地域の教育環境を生かし、家庭・地域社会との連携を重視した指導計画の改善・充実を図る。>

- ・地域環境を意図的・計画的に生かし、生活体験に根ざした地域の素材や人材を学習に位置づけ、保育所や他施設と連携したボランティア的な活動などを取り入れた特色ある総合的な学習の時間の指導計画が作成された。
- ・生活科での「まちたんけん」、総合的な学習の時間での地域学習では、積極的に地域に足を運んで学習を展開する活動の充実が図られ、地域で働き、生活している人たちとの触れ合いをとおり、地域の自然の豊かさやよさ、先人の知恵のすばらしさなどを再発見することができるようになった。
- ・日常生活や体験に基づいた問題把握や課題提示を工夫することにより児童の思いや願いを生かし、児童自ら多様な方法で課題を解決する意欲を高めるような指導計画の改善が各教科でも行われてきている。

課題7《課題意識をもち、学び方を身に付け、仲間と共に進める問題解決的な学習指導過程の改善・充実を図る。》

- ・自ら課題を把握し、学習への意欲をもち、課題を解決していく力を育てる学習の流れ、「わたり」「ずらし」の工夫、両学年の学習状況を同時に見取る時間帯を設定した「小わたり」など、児童の実態を踏まえて柔軟に対応できる学習指導過程の在り方について 研究が深まった。
- ・総合的な学習の時間では、児童一人一人の課題意識を重視し、個や集団に配慮した学習指導過程をつくることができた。
- ・学習リーダーの育成と学習パターンの定着、ワークシート（学習シート）、ヒントカードの活用などの改善工夫により、問題解決的な学習の展開が図られ、自力解決能力や学び合う態度を育むことができた。
- ・算数的活動を取り入れることで児童の自力解決に対する意欲を高めるとともに、多様な考えを生み出しながら自分らしさを発揮することができた。
- ・学習指導過程の中に目指す子供像や身に付ける力などに迫るための手だてが明記され、個に応じた適切な指導がなされ効果をあげることができた。

課題8《学ぶ楽しさや成就感のある体験的な学習を重視した指導方法の改善・充実を図る。》

- ・小規模校の特性を生かし、児童一人一人のよさなどの実態を把握し、個に応じた支援やきめ細かな指導がなされ、思考力や表現力などを育てる学習活動の改善が図られた。
- ・間接指導や発表場面で、少人数の利点を生かし、視聴覚機器、コンピュータなどの活用が十分に図られ、多様な情報を収集し活用する授業が行われた。
- ・児童のよさをとらえ、生かす授業の改善に向けた取り組みを通し、一人一人が生き生きとした学習を展開するための指導方法や評価の充実が図られた。
- ・教科指導の問題解決過程で操作活動などの体験的な活動を工夫することで、自ら思考し、判断し、表現しながら課題を解決する創造的な能力を育むことができた。

課 題 学校・学級経営

- ・我が国や本道の今日的な教育の動向や道へき・複連の長期5か年計画を踏まえ、生涯学習の視点に立ち、渡島管内のへき地・小規模・複式学級を有する学校で学ぶ児童の持つ課題を解決していくには、学習や生活の実態を適切に受けとめながら学校経営と連動する学級経営、そして評価と一体となった学習指導の教育研究を一層構築していくことが必要である。
- ・学校の教育課題を明確にし、より開かれた学校経営を推進するために、外部評価を積極的に取り入れ、地域の実態と保護者の価値観・意識の変化を考慮した教育課程と指導計画の工夫改善を図っていくことが必要である。
- ・地域に根ざし児童に豊かな心を育む教育を推進するためには、教材の宝庫である地域や人材の活用を推し進め、子供たちとのふれあいの場を増やすとともに道徳的実践力を高めるボランティア活動などの充実を図ることが必要である。
- ・児童数の減少とそれに伴う教員数の削減で極小規模化が進んでいる現状を踏まえ、児童に新たな時代を生き抜く力を育む教職員の指導力向上と共同研究体制の確立になお努めていく必要がある。

学 習 指 導

- ・渡島大会の成果に学び、渡島管内複式各校で児童一人一人に学ぶ意欲を喚起させるとともに、個のよさを生かしながら基礎的・基本的内容を定着させる指導計画と評価の改善充実を一層図る必要がある。
- ・多くの分科会会場校の実践のように地域の教育環境を収集・分析し、生かし実践するなど、管内各学校が家庭や地域社会との連携をより広め深めながら学習内容の改善と充実を図る必要がある。
- ・教科の特質を踏まえて自校の指導類型の見直しを図るとともに、児童自ら課題意識をもち、学び方を身に付け、友達と共に高め合えるような問題解決的な学習指導過程の改善充実をさらに図る必要がある。
- ・極小規模化が進む現状を認識し、児童が学ぶ楽しさや成就感を体感できるように体験的な学習を取り入れ、個別化や集団化の工夫など指導方法の一層の改善・充実を図る必要がある。